



竜ヶ池の人柱伝説

定

五郎橋を渡り、鈴鹿川の堤防上を進むと、いくらも行かないうちに行き止まりとなった。仕方ないので、堤防から道なき道をかき分けて、国道一号線へ出る。こちら辺りは信号も少なく、自動車はスピードをかなり出しているが、歩行者は皆無にも関わらず歩道はけっこうしっかりとしていて、安心して歩くことができる。

国道一号線を横断してJR加佐登駅へと向かう。目的の竜ヶ池へは駅からコミュニティバスを使うと何かに書いてあったから、わりと大きい駅かと思ったが、まったくそんなことはなく無人駅だった。バスの時刻表を見ると、次は一時間後らしい。すると同行者が歩こうじゃないかと言いつ出した。竜ヶ池まで六キロ以上は確実にあるが、道がバス路線と重なるので、どこかで追いついてくるだろう。のんびり進むことにした。

竜ヶ池は鈴鹿市伊船町にあり、御幣川左岸段丘上に位置する。寛文五（一六六五）年に伊船村の大庄屋を務めていた真弓長左衛門によって築かれた。長左衛門は、伊勢亀山藩に一万八千人の夫を願ひ出て竜ヶ池を造り、これによって村の南東の荒れ地に伊船新田が生まれた。更に二年後には、再び藩に三千八千人の夫を求めて、御幣川の水を竜ヶ池に導き入

れた。こうして池は涸れることがなくなり、伊船新田はもとより下流域の諸村を潤し続けている。

一時間以上歩いた後にバスに乗れたので、一〇分ほどではあるが楽をして「伊船新田」のバス停に着いた。そこから二、三分も歩けば真弓神社に至る。ここは真弓長左衛門を祀る神社で、慶応元（一八六五）年に伊勢亀山藩主より真弓神社の神号を許された。

真弓神社から更に一キロほど歩くと竜ヶ池の南端にたどりつく。そこには「お龍之霊碑」と刻まれた石碑が建てられている。これは竜ヶ池の工事の人柱となったという女性のために建てられた。伊藤俊一氏の『龍が池物語』によれば、お竜は真弓長左衛門の養女で、工事を監督する長左衛門のもとに、誰よりも早く弁当を届けていた。工事は進んだが、池に水を溜めるための堤を築くと何度も崩れてしまう。そこで人柱を建てることとなり、一番早く弁当を届けに来た者が選ばれることとなった。そして、やはりそれはお竜であり、彼女は堤の中に埋められてしまった。

この話は、昭和十二年八月十二日から十四日の伊勢新聞にも紹介されており、お竜が人夫頭の子供などと幾分設定は異なるが、当時の県道をお竜の幽霊が弁当を運ぶ姿を見たとか、お竜の祟りか伊船では

ここ十数年病気が絶えないなどといった怪談めいた話が地元で語られていたことがわかる。

さて、竜ヶ池は周囲一キロほどだから、ぐるっと歩いてみたいが、ちょうどよい具合に先ほど乗ったコミュニティバスが巡回して戻ってきた。少し後ろ髪をひかれるが、まだまだ三重の旅を続けなければならぬ。同行者の体調を考えて、おとなしくバスで駅へ戻ることにした。



お龍之霊碑と竜ヶ池

〔交通〕JR加佐登駅からコミュニティバスに乗り伊船口で下車（約20分）。伊船口からは徒歩約5分。

東日本建設業保証株式会社
建設産業図書館
江口知秀
Tomohide Eguchi